館報はた
スージーちゃん　スイカワくん

平成27年3月1日現在

世帯数	5,870戸
人口	15,649人
男	7,591人
女	8,058人

市特別天然記念物「波田小学校のアカマツ林」を守れ！

近年、松くい虫による松枯れ被害が全国的に広がっていますが、昨年8月には波田地区内でも被害が確認されたとの新聞報道がされました。松本市内では四賀地区が最も被害が大きく、梓川地区など西部地域に広がってきています。

松くい虫による松枯れは、マツノザイセンチュウという小さな線虫が松の樹体に侵入することによって起きるもので、マツノマダラカミキリというカミキリ虫が線虫を運ぶことで被害が広がっていきます。このため線虫とカミキリ虫を駆除する薬剤の空中散布や樹幹注入が行われています。

波田小学校の敷地内には約450本のアカマツが生育しており、この松林はかつて波田町天然記念物に指定され、松本市と合併後は市特別天然記念物に指定されています。

江戸時代には、波田三ケ村（上波田村、下波田村、三溝村）にまたがる梓川の段丘上に約百町歩（約100ヘクタール）の松林が広がり、松本藩はこれを藩の御用林として保護し、御林（おはやし）と呼ばれました。そして城下町の土木事業や建設事業の資材として活用しました。

波田地区は宅地化が進み、御林だったアカマツ林は伐採され、江戸時代から続いたかつての波田の景観を残すのは、この波田小学校の敷地を含めわずかとなってしまいました。

この大切なアカマツ林を松くい虫から守るため、松本市教育委員会により今年度と来年度にかけて樹幹注入剤を施工することになり、今年度は1月中旬から月末にかけて行われました。

波田で育つ子供たちは皆この松林に囲まれて遊び、学び、巣立っていきます。何とかして、このアカマツ林を松くい虫から守り、後世へ伝えていきたいものです。

18区町会 ボウリング大会

早朝から雪が舞い散る2月15日、我が18区町会での毎年恒例行事、ボウリング大会が開催されました。

とはいえ、昨年、一昨年と天候等により中止を余儀なくされ、2年ぶりの開催となりました。そんな2年間のブランクをものともしない熱い戦いが繰り広げられ、老若男女、和気あいあいと楽しく交流深まる有意義なものとなりました。

我が18区町会は波田地区の中でも戸数の一番少ない小規模な町会です。それもあって今回の大会の参加人数も16名と少人数ではありましたが、皆知った顔ぶればかりなので、ストライクやスペア等ファインプレーが出れば、ハイタッチや拍手が巻き起こり自然と競技も盛り上がります。また、冗談や冷やかしも飛び出して終始笑顔の絶えない中、楽しくゲームが進んでいきました。

4つのレーンを借り切り、1レーン4名で3ゲームのトータルスコアで競います。もちろん上手い人もいれば、そうでない人もいるので、ハンディキャップを考慮してのスコアとなります。交流を深める為の大会とはいえ景品も用意されているので、皆さん本気モードで頑張っていただきました。

気になる結果は、優勝者のスコアは3ゲーム合計がグロスで374点。なかなか僅差の勝負となりました。中には4連続ストライクを出し1ゲームのスコアが211点というハイスコアの強者もいて、大いに盛り上がりました。

短い時間の大会でしたが、勝負と投球の行方に一喜一憂する、普段ではなかなか見られない町会の皆さんの姿に触れ、自分自身も楽しい時間となりました。また来年もきっと開催されるでしょう。来年はどんな戦いになるのか楽しみです。

ちなみに私の成績はといいますと…。有り難く参加賞を頂きました（笑）。

27区町会 イベント 鬼の家庭訪問

2月1日（日）に27区町会の恒例イベントとして、「鬼の家庭訪問」を行いました。

27区の設立まもなくから始めたこのイベントは、今年で5回目となります。今回は、10件の応募があり、25名の子どもたちが元気に豆をまいてくれました。

「鬼の家庭訪問」とは、どんな内容かと言いますと、節分の時期に、鬼に変装して申し込みのあった家庭へ伺います。イメージは、秋田の「なまはげ」そのものというところでしょうか？「悪い子はいないかぁ」等と言いながら玄関に押しかけます。待ち構えた子どもは、豆を投げて鬼を追い払います。鬼は、次第に退散しはじめ、最後に「参りましたぁ～」等と平伏し、「お詫びにこれで勘弁して下さい」とお菓子を子供に渡します。このあたりはハロウィンのネタとなっています。

子どもたちの反応も様々で、泣きわめいてしまう子もいれば、真剣に鬼を追い払おうと奮闘する子もいます。特に年長くらいの男の子は、豆の豪速球が飛んできて結構痛かったりします。わんわん泣いた子が、お菓子を渡すと笑顔になってしまうギャップが可愛かったりします。タイミングが合う時は、近くの介護施設に出向き、ご老人に豆をまいてもらって楽しんでもらう活動もしています。

毎年、募集をすると応募があるため、張り合いをもって鬼に扮しています。ささやかな地域サービスとして定着していけばいいなと思っています。

楽しかったバスハイク

3区公民館

2月1日（日）に3区公民館のバスハイクが実施されました。

2年間の事業活動の中で恒例となって開催されている事業ですが、今年は、昨年6月に世界遺産に登録された、群馬県富岡市にある「富岡製糸場」と軽井沢の冬の「白糸の滝」に行ってきました。

2月の初めということもあって、昨年のような大雪も心配されましたが、当日は天候に恵まれ、37名の区民の皆さんに参加いただき、楽しい親睦バスハイクとなりました。

富岡製糸場では、専任のボランティアガイドツアーをお願いし、レンガ造りの東繭・西繭倉庫、繰糸場、女工館、ブリュナ館等を1時間の見学コースで、工場の歴史から建物群の説明を聞きました。

明治5年に官営工場として創業され、やがて民間工場に払下げとなりましたが、昭和62年の操業停止までの115年間製糸工場として活躍してきました。この工場は、今日まで保存管理され、明治維新後の日本産業の近代化が国策として進められた建物と歴史に触れることは、私たちにとって大変勉強になりました。世界遺産に登録され、これからは世界の文化遺産として引き継がれることとなりました。

3区公民館のバスハイクとして大変有意義な1日となり、またお昼の親睦、バスの中での懇親と、今年度の最後の公民館事業となりましたが、事業目的であります年代を超えた区民相互の交流と親睦が図られました。

まぼろしの酒

12月末、消防の仲間たちで育てた酒米で仕込んだ日本酒が届いた。

7年間蔵元に通い、蔵元に友達も勤めていることもあり、ようやく作って頂いた一品、今年で4回目の仕込みになった。

田植えから籾摺りまで自分たちで行い、仕込みは酒蔵に任せる。

そして今年の酒も甘いフルーティーな香りで、微炭酸のキリッとした味わいの生純米吟醸酒「第六」が出来上がった。

今年は天候不順でコメの出来が良くなく不安であったが、杜氏の工夫もあり、中々の仕上がりであった。

出来上がった日本酒で、みんなで1年間の苦労話をしながら杜氏を囲んでの一杯は、最高の味だった。

日本酒を作り始めて日本酒への関心が高まったせいか、色んな事を耳にするようになった。

日本酒の消費量が減り、10年前には3000棟あった酒蔵も半分以下までに減ってしまった。だが、この数年で蔵元の世代交代も進み、若い蔵元が頑張った結果、この数年で最高の日本酒が出来上がり、4年前の東日本大震災の復興支援で注目が集まったこともあり、日本酒への回帰が始まった。

希少な蔵元をこれ以上無くさないためにも、若い人たちにも旨い日本酒を飲んでもらいたいと思う。